

平成29年度第1回 岡山県スポーツ推進審議会 次第

日時：平成29年5月18日（木）

15:00～17:00

場所：岡山シティホテル桑田町 会議室305

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

（1）岡山県スポーツ推進計画の見直しについて

- ① 国の第2期スポーツ基本計画の概要
- ② 現計画の概要
- ③ 見直しのたたき台

（2）岡山県スポーツ推進計画の見直しに係るスケジュールについて

4 閉 会

国スポーツ基本計画の構成

第1期（平成24～28年度）	第2期（平成29～33年度）
はじめに	
第1章 スポーツをめぐる現状と今後の課題	第1章 第2期スポーツ基本計画の策定に当たって
1 背景と展望 (1) 我が国の社会の現状と目指すべき社会像 (2) スポーツ基本法の制定～背景とスポーツの果たす役割の明確化～ (3) スポーツを通じてすべての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会の創出 2 スポーツ基本計画の策定	1 スポーツ庁の創設と第2期スポーツ基本計画 2 第2期スポーツ基本計画の概要 3 第2期スポーツ基本計画が目指すもの
第2章 今後10年間を見通したスポーツ推進の基本方針	第2章 中長期的なスポーツ政策の基本方針
	1 スポーツで「人生」が変わる！ 2 スポーツで「社会」を変える！ 3 スポーツで「世界」とつながる！ 4 スポーツで「未来」を創る！
第3章 今後5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策	第3章 今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む施策
1 学校と地域における子どものスポーツ機会の充実 (1) 幼児期からの子どもの体力向上方策の推進 (2) 学校の体育に関する活動の充実 (3) 子どもを取り巻く社会のスポーツ環境の充実	1 スポーツを「する」「みる」「ささえる」スポーツ参画人口の拡大と、そのための人材育成・場の充実 (1) スポーツ参画人口の拡大 ①若年期から高齢期までライフステージに応じたスポーツ活動の推進 ②学校体育をはじめ子供のスポーツ機会の充実による運動習慣の確立と体力の向上 ③ビジネスパーソン、女性、障害者のスポーツ実施率の向上と、これまでスポーツに関わってこなかった人へのはたらきかけ
2 若者のスポーツ参加機会の拡充や高齢者の体力つくり支援等ライフステージに応じたスポーツ活動の推進 (1) ライフステージに応じたスポーツ活動等の推進 (2) スポーツにおける安全の確保	(2) スポーツ環境の基盤となる「人材」と「場」の充実 ①スポーツに関わる多様な人材の育成と活躍の場の確保 ②総合型地域スポーツクラブの質的充実 ③スポーツ施設やオープンスペース等のスポーツに親しむ場の確保 ④大学スポーツの振興
3 住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備 (1) コミュニティの中心となる地域スポーツクラブの育成・推進 (2) 地域のスポーツ指導者等の充実 (3) 地域スポーツ施設の充実 (4) 地域スポーツと企業・大学等との連携	2 スポーツを通じた活力があり絆の強い社会の実現 (1) スポーツを通じた共生社会等の実現 ①障害者スポーツの振興等 ②スポーツを通じた健康増進 ③スポーツを通じた女性の活躍促進 (2) スポーツを通じた経済・地域の活性化 ①スポーツの成長産業化 ②スポーツを通じた地域活性化 (3) スポーツを通じた国際社会の調和ある発展への貢献
4 國際競技力の向上に向けた人材の養成やスポーツ環境の整備 (1) ジュニア期からトップレベルに至る戦略的支援の強化 (2) スポーツ指導者及び審判員等の養成・研修やキャリア循環の形成 (3) トップアスリートのための強化・研究活動等の拠点構築	3 國際競技力の向上に向けた強力で持続可能な人材育成や環境整備 ①中長期の強化戦略に基づく競技力強化を支援するシステムの確立 ②次世代アスリートを発掘・育成する戦略的な体制等の構築 ③スポーツ医・科学、技術開発、情報等による多面的で高度な支援の充実 ④トップアスリート等のニーズに対応できる拠点の充実
5 オリンピック・パラリンピック等の国際競技大会等の招致・開催等を通じた国際交流・貢献の推進 (1) オリンピック・パラリンピック等の国際競技大会等の招致・開催等 (2) スポーツに係る国際的な交流及び貢献の推進	4 クリーンでフェアなスポーツの推進によるスポーツの価値の向上 ①コンプライアンスの徹底、スポーツ団体のガバナンスの強化及びスポーツ仲裁等の推進 ②ドーピング防止活動の推進
6 ドーピング防止やスポーツ仲裁等の推進によるスポーツ界の透明性・公平・公正性の向上 (1) ドーピング防止活動の推進 (2) スポーツ団体のガバナンス強化と透明性の向上に向けた取組の推進 (3) スポーツ紛争の予防及び迅速・円滑な解決に向けた取組の推進	第4章 施策の総合的かつ計画的な推進のために必要な事項
7 スポーツ界における好循環の創出に向けたトップスポーツと地域におけるスポーツとの連携・協働の推進 (1) トップスポーツと地域におけるスポーツとの連携・協働の推進 (2) 地域スポーツと企業・大学等との連携	1 計画の広報活動の推進 2 計画実施のための財源の確保と効率的・効果的な活用 3 計画の進捗状況の定期的な検証
第4章 施策の総合的かつ計画的な推進のために必要な事項	
(1) 国民の理解と参加の推進 (2) 関係者の連携・協働による計画的・一体的の推進 (3) スポーツの推進のための財源の確保と効率的・効果的な活用 (4) 計画の進捗状況の検証と計画の見直し	

岡山県スポーツ推進計画の見直しについて

平成25（2013）年3月に策定した岡山県スポーツ推進計画は、平成34（2022）年度までの10年間を計画期間としているが、中間年度である今年度、見直しを行う。

1 趣旨

現計画は、岡山県スポーツ推進条例第7条に定める「県スポーツの推進に関する施策を総合的かつ計画的に実施するための計画」として策定されたものである。

「新晴れの国おかやま生き活きプラン」の内容を踏まえ、平成30（2018）年度以降5年間の本県のスポーツ施策の方向性を示す。

2 概要

（1）計画の期間

平成25（2013）年度から平成34（2022）年度までの10年間

ただし、見直し後の計画期間は、平成30（2018）年度から平成34（2022）年度

（2）計画の目標

「スポーツ立県おかやま」の実現

なお、この目標が県民に、より分かりやすく伝わるようサブタイトルを見直す。

（3）基本施策

目標の実現に向け、以下の点などを盛り込んだ見直しを行う。

- ・スポーツを「する」「みる」「ささえる」参加人口の拡大
- ・若年期から高齢期までライフステージに応じた生涯スポーツの推進
- ・アスリートの育成と持続可能な支援システムの構築
- ・東京オリンピック・パラリンピック等を契機としたスポーツの振興とレガシーの継承
- ・おかやまマラソンの開催やトップクラブチームの活躍による地域の活性化

3 見直しの考え方

現計画に基づき行われてきた各施策の達成状況、課題の検証・評価の結果や国の第2期スポーツ基本計画の重点施策を踏まえて見直す。

4 スケジュール（予定）

平成29年5月18日 スポーツ推進審議会（諮問）

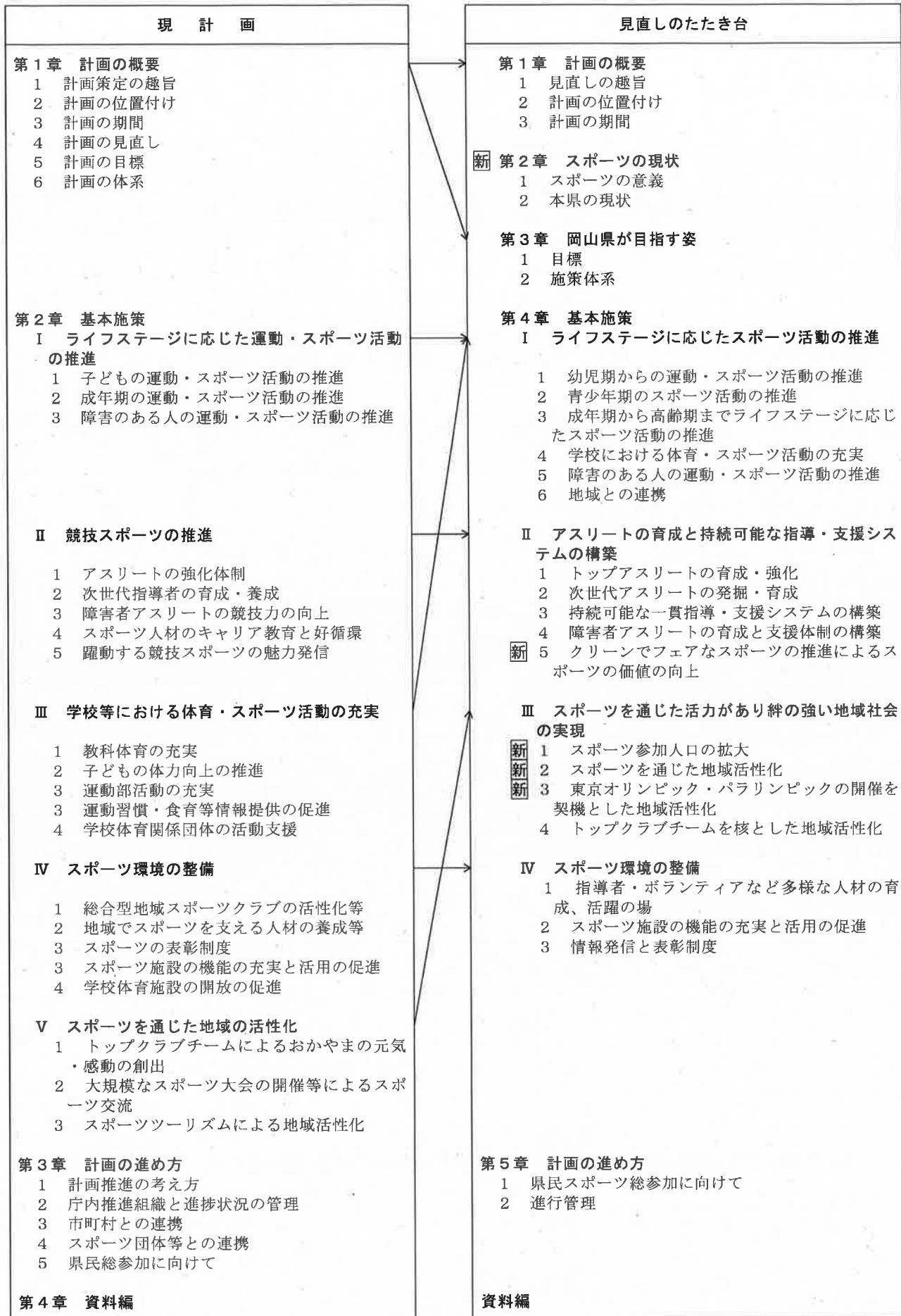
7月・10月 スポーツ推進審議会（素案の検討）

11月～12月 パブリックコメント、関係団体からの意見聴取

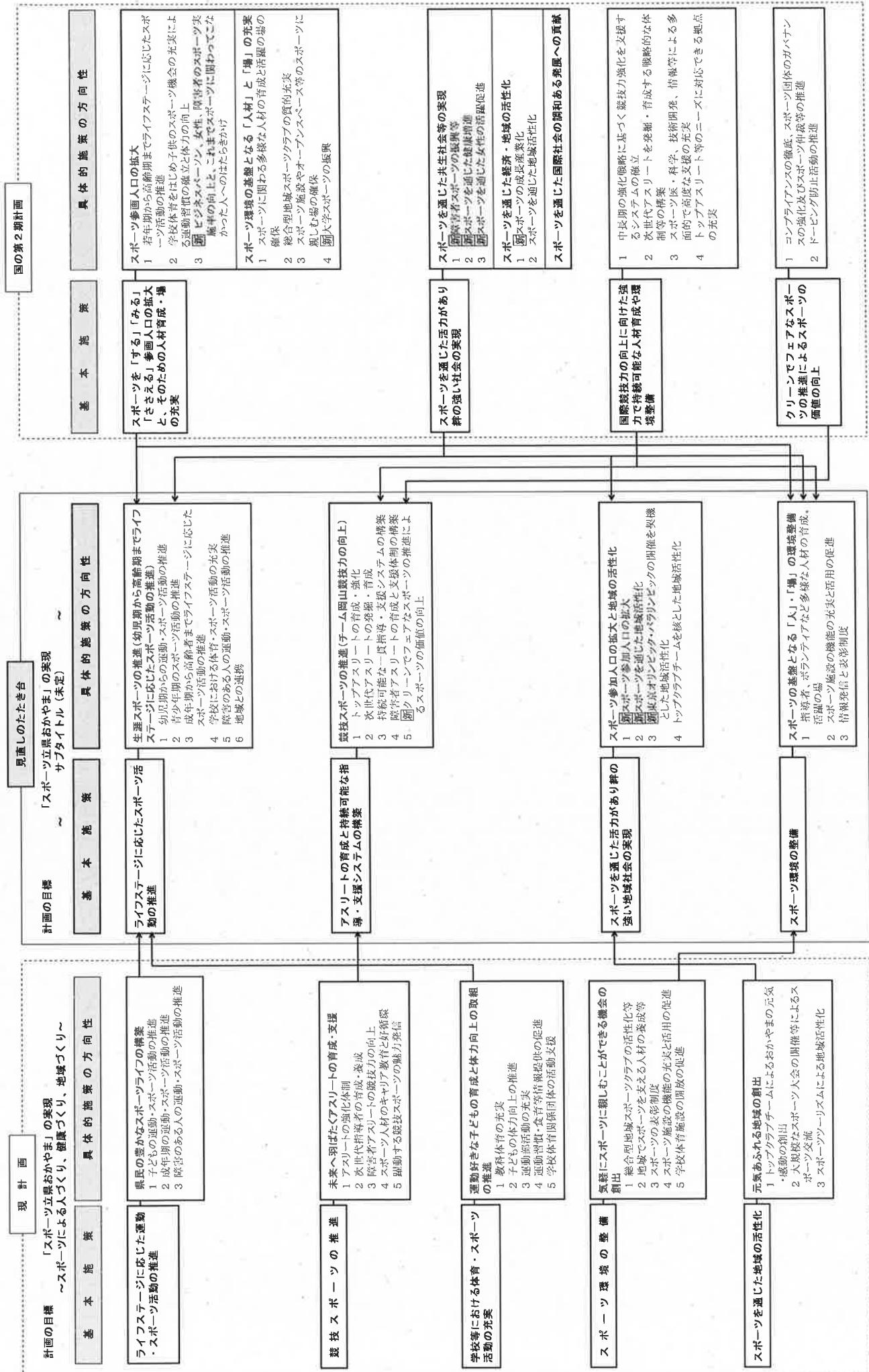
平成30年2月 スポーツ推進審議会（答申）

3月 公表

岡山県スポーツ推進計画の構成



岡山県スポーツ推進計画の体系図（案）



岡山県スポーツ推進計画 見直しのたたき台

現時点の主なものであり、今後、関係各所と協議・加筆していきます。

第1章 計画の概要

1 見直しの趣旨

見直しの背景・趣旨を記述します。

- 岡山国体から10年が経過し、スポーツを取り巻く県内の環境も変化
- 岡山を拠点とするトップクラブチームの地元定着、おかやまマラソンの開催によるスポーツ参加人口の増加、それらによる地域活性化など好循環が発生
- 国では、スポーツ庁の発足、東京オリンピック・パラリンピックの開催決定等によるスポーツに対する国民の関心の高まりや、それらを契機とした次世代につながるレガシー（遺産）の創出に向けて、第2期スポーツ基本計画を策定
- こうした状況の変化、今年3月に策定した本県の総合計画（新晴れの国おかやま生き活きプラン）を踏まえ、現計画の中間年度である今年度、見直しを行う。

2 計画の位置付け

- スポーツ基本法第10条に定める地方スポーツ推進計画
- 岡山県スポーツ推進条例第7条に定める、スポーツの推進に関する施策を総合的かつ計画的に実施するための計画

3 計画の期間

平成25（2013）年度から平成34（2022）年度までの10年間

ただし、見直し後の計画期間は、平成30（2018）年度から平成34（2022）年度までの5年間

第2章 スポーツの現状

1 スポーツの意義

スポーツの意義について記述します。

- スポーツは、世界共通の人類の文化である。
- スポーツは、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自立心その他の精神のかん養等のために重要であるとともに、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは全ての人々の権利である。
- スポーツには、スポーツそのもの自体を楽しむという文化的意義に加え、身体的な効果（健康・体力の保持増進、精神的な充足等）や教育的な効果（公正と規律を尊ぶ精神など人格の形成等）、社会的な効果（トップクラブチームやアスリートの活躍による地域の活性化等）がある。
- 全ての人々が「する」「みる」「ささえる」といった様々な形で積極的にスポーツに参加し、スポーツを楽しみ、喜びを得ることで、ひとりひとりが生きがい・元気を持て、豊かで潤いある暮らしや活力ある地域につながる。

◇国の第2期スポーツ基本計画では、①スポーツで「人生」が変わる、②スポーツで「社会」を変える、③スポーツで「世界」とつながる、④スポーツで「未来」を創る、という観点から、スポーツ参画人口を拡大し、「一億総スポーツ社会」の実現に取り組むことを基本方針としている。

こうしたスポーツの意義・効果を基礎に、岡山県スポーツ推進計画を見直す。

2 本県の現状

県の現状を記述します。

- 日本は本格的な人口減少・超高齢化社会に入っており、それは本県においても同様。その中で、すべての県民が明るい笑顔で暮らす「生き活き岡山」の実現のためには、スポーツの力を活用することが効果的。
- ライフステージに応じた運動・スポーツ活動については、成人男女の週1日以上運動・スポーツを実施する割合は、49.5%（平成27（2015）年度）。
- 競技スポーツについては、国体の天皇杯順位は10位台を維持。高校総体の入賞者も増加。オリンピックをはじめ、岡山ゆかりのアスリートの国際大会出場者数は286人（平成27（2015）年度）。
- 学校等における体育・スポーツ活動については、1週間の総運動時間数60分未満の児童生徒数の割合は低下。
- スポーツ環境の整備については、県営スポーツ施設の利用者数は増加。学校運動部活動と連携している総合型スポーツクラブ数、学校体育施設の開放率は横ばい。
- スポーツを通じた地域の活性化については、岡山を拠点とするトップクラブチームの活躍により、地域の一体感の醸成が進む。

第3章 岡山県が目指す姿

1 目標

目標（「スポーツ立県おかやま」の実現）がよりわかりやすく伝わるよう、サブタイトルを見直します。

全ての県民が生涯にわたり、「スポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、スポーツを支える」というスポーツ活動に参加することにより、スポーツを通じた人づくり、健康づくり、地域づくりの輪が広がり、夢、勇気、感動を創出できる岡山であり、新たな潮流である「する」「みる」「ささえる」というスポーツへの関わりの中で、すべての県民がスポーツの力で人生を楽しく健康で生き活きと暮らせる「スポーツ立県おかやま」の実現を目指します。

「スポーツ立県おかやま」の実現

～サブタイトル（未定）～

サブタイトルの案は、素案でお示します。

2 施策体系

スポーツを通じて、すべての県民が生きがいを持って活動し、能力を発揮できる、豊かで潤いのある暮らしや活力のある地域の創造の実現に向けて、次の4つを基本施策として取り組みます。

I ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

～生涯スポーツの推進（幼児期から高齢期までライフステージに応じたスポーツ活動の推進）～

II アスリートの育成と持続可能な指導・支援システムの構築

～競技スポーツの推進（チーム岡山競技力の向上）～

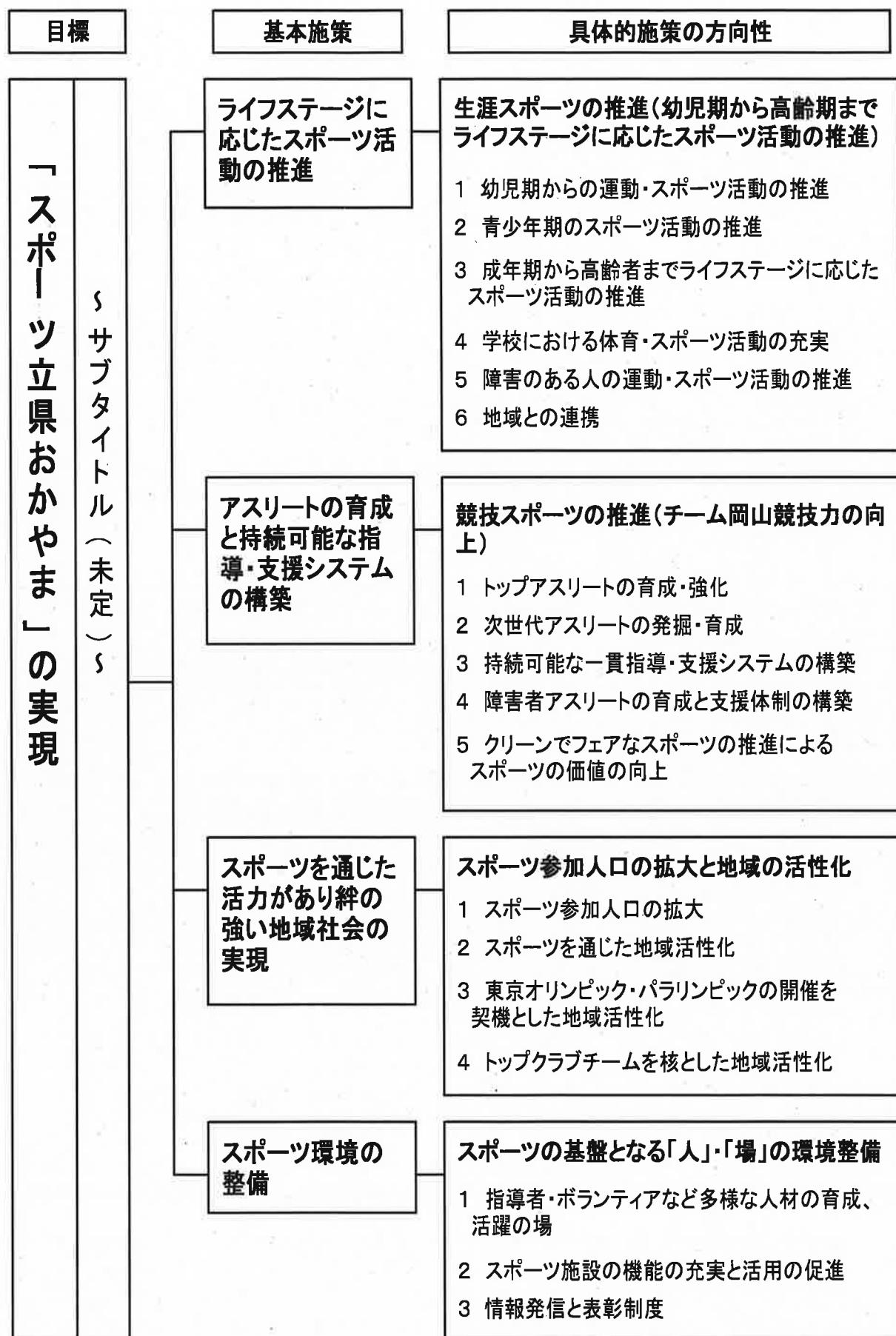
III スポーツを通じた活力があり絆の強い地域社会の実現

～スポーツ参加人口の拡大と地域の活性化～

IV スポーツ環境の整備

～スポーツの基盤となる「人」・「場」の環境の整備～

体系図



第4章 基本施策

基本施策Ⅰ ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

～生涯スポーツの推進（幼児期から高齢期までライフステージに応じたスポーツ活動の推進）～

幼児期から高齢期までライフステージに応じた取組を推進します。

1 幼児期からの運動・スポーツ活動の推進

【現状と課題】

- 幼児期は、元気に遊んで多様な動きを身につける大切な時期
- 発達特性を踏まえた指導内容の充実、指導者等の資質向上が必要

【今後の施策展開の方向】

- 幼児期運動指針等に基づく運動習慣づくりの促進
- アクティブ・チャイルド・プログラム（文科省が日本体育協会に委託し作成した、子どもが発達段階に応じて身につけておくことが望ましい動きを習得する運動プログラム。）の普及
- 発達特性に応じた指導内容の充実、指導者等の資質向上
- 幼児期からの運動・スポーツの重要性について、保護者等への啓発

【数値目標】

国や県の状況を踏まえ、素案でお示しします。

2 青少年期のスポーツ活動の推進

【現状と課題】

- 体力・運動能力調査（文部科学省）によると、体力・運動能力は緩やかな上昇傾向にあるが、体力水準が高かった昭和60年頃と比べると依然として低い水準。岡山県では、多くの種目は全国平均より上回っている。
- 1週間の総運動時間数60分未満の割合は、岡山県では、小・中学校ともに女子において改善の傾向が見られる。中学校は全国平均より高い。また、中学生女子は運動をしない生徒の割合そのものが高い（15.7%）。
- 岡山県におけるスポーツ少年団について、団数はピーク（昭和61（1986）年度）の約8割（81.1%）まで減少。団員数はピーク（昭和58（1983）年度）の約4割（41.5%）まで減少。

【今後の施策展開の方向】

- 「つくろう・のばそう！スポーツプロジェクト」（スポーツ活動奨励事業）の実施
- スポーツ少年団の加入促進
- スポーツ少年団等の指導者の資質向上
- 総合型地域スポーツクラブについての情報発信
- アスリート派遣事業やトップクラブチームの試合の活用等による運動・ス

ーツに親しむ機会の提供

【数値目標】

国や県の状況を踏まえ、素案でお示しします。

3 成年期から高齢期までライフステージに応じたスポーツ活動の推進

【現状と課題】

- 平均寿命と健康寿命の差が大きい。
- 成人男女の週1日以上運動・スポーツを実施する割合は、49.5%（平成27（2015）年度）。
- ビジネスパーソン、女性や障害者などスポーツの機会が少ない人や、そもそもスポーツに全く興味がない人が参加するきっかけづくりが必要

【今後の施策展開の方向】

- スポーツを通じた健康増進（「第2次健康おかやま21」との連携）
- 総合型地域スポーツクラブによる高齢者のスポーツ参加機会の充実等の取組
- 働き方の見直し、健康経営やワークライフバランスの普及啓発

【数値目標】

国や県の状況を踏まえ、素案でお示しします。

4 学校における体育・スポーツ活動の充実

【現状と課題】

- 1週間の総運動時間数60分未満の割合は、岡山県では、小・中学校ともに女子において改善の傾向が見られる。中学校は全国平均より高い。また、中学生女子は運動をしない生徒の割合そのものが高い（15.7%）。
- 授業や部活動といった学校における取組により、運動への動機付けが必要
- 部活動について、競技経験者など外部指導者の活用が求められている。

【今後の施策展開の方向】

- 「体力アッププログラム」の活用や、「みんなでチャレンジランキング」への積極的な参加などの運動する取組の継続
- 総合型地域スポーツクラブをはじめ、地域のスポーツ指導者等の協力・連携による体育授業や運動部活動の充実
- 医・科学的根拠に基づいた適切な運動部活動の実施や休養日の設定
- いじめの防止及び早期発見に向けた、教員やスポーツ指導者の資質向上及び地域・家庭や関係機関との連携
- 体罰の根絶に向けた研修の実施など、教員やスポーツ指導者等の資質向上
- 体育・保健体育授業の充実・改善を通して「する」「みる」「ささえる」などのスポーツに関わる人材の育成
- オリンピック・パラリンピック教育をはじめ、スポーツの意義・価値や社会的効果についての体育・保健体育指導の充実・改善
- 学校体育施設等の積極的開放を通してスポーツに親しむ場の確保

- 我が国固有の文化である武道を通して礼や相手を尊重する態度を育むなど、
武道授業のさらなる充実と安全確保（次期学習指導要領への対応）

【数値目標】

国や県の状況を踏まえ、素案でお示しします。

5 障害のある人の運動・スポーツ活動の推進

【現状と課題】

- 障害者（成人）の週1回以上のスポーツ実施率は19.2%（若年層（7～19歳）は31.5%） 平成27（2015）年度 全国
- 障害者がスポーツを行う際のサポートをする指導者やボランティアの数は十分ではない。
- スポーツに親しむ機会・場が少ない。

【今後の施策展開の方向】

- 障害者スポーツの理解促進
- 障害者がスポーツに出会う場、スポーツに親しむ場の提供
- 障害者スポーツ指導員の活用促進と人材の育成
- 障害者スポーツ教室の拡充
- バリアフリー化など障害者が使いやすい環境づくり

【数値目標】

国や県の状況を踏まえ、素案でお示しします。

6 地域との連携

【現状と課題】

- 県内における総合型地域スポーツクラブは、22市町に42団体（平成28（2016）年度末）。うち学校運動部活動と連携しているのは7団体（平成27（2015）年度末）。
- 地域にある既存施設の有効活用など、スポーツ施設以外でスポーツができる場の創出が必要。

【今後の施策展開の方向】

- 総合型スポーツクラブが地域課題（放課後児童クラブ、介護予防）等に関与できる仕組みづくり
- 地域における子どものスポーツ・遊び場の確保
- 地域、民間事業者と連携したオープンスペースの確保
- 運動部活動における外部指導者の充実【再掲】
- わがまちスポーツとしての地域の支援体制の構築
- 市町村体育協会、スポーツ推進委員と連携した生涯スポーツの推進

【数値目標】

国や県の状況を踏まえ、素案でお示しします。

基本施策Ⅱ アスリートの育成と持続可能な指導・支援システムの構築 ～競技スポーツの推進（チーム岡山競技力の向上）～

アスリートの発掘・育成・強化とそのための一貫指導・支援システムの再構築、指導者や人材の育成・養成等を推進します。

1 トップアスリートの育成・強化

【現状と課題】

- 2016年リオデジャネイロオリンピックに本県ゆかりの選手が10名出場
- オリンピアン育成事業の強化指定選手のうち1名が日本代表、1名が日本代表候補、6名がアンダーカテゴリーの日本代表選手として世界の舞台で活躍

【今後の施策展開の方向】

- オリンピアンの育成に向けた支援
- オリンピック選手の輩出に向け、その育成環境を整備

【数値目標】

国や県の状況を踏まえ、素案でお示しします。

2 次世代アスリートの発掘・育成

【現状と課題】

- 岡山国体以降、天皇杯10位台を維持
- 世代交代期を迎えており次世代アスリートの発掘・育成が必要

【今後の施策展開の方向】

- 学校、地域、競技団体等と連携。地域ネットワークを活用したアスリートの発掘・育成
- 各競技団体の強化活動を補完し、ジュニア層の競技力向上を支援
- 未普及競技などへの競技転換の促進や児童生徒・ジュニアアスリートに対する多角的な支援体制の充実

【数値目標】

国や県の状況を踏まえ、素案でお示しします。

3 持続可能な一貫指導・支援システムの構築

【現状と課題】

- 今後、指導者の世代交代等を迎えるにあたり、一貫指導体制の再構築が必要
- アスリートがキャリア形成を行いながら競技力向上に専念できる環境整備が必要

【今後の施策展開の方向】

- 新たな指導者の育成と競技及び競技団体の特性に応じた持続可能な一貫指導体制の再構築

- アスリートUターン支援とUターンアスリートによる持続可能な競技力向上と指導体制の構築
- 新たな知見、医・科学的根拠に基づくアスリートの育成
- 将来を担う人材として、アスリートのキャリア形成への支援

【数値目標】

国や県の状況を踏まえ、素案でお示しします。

4 障害者アスリートの育成と支援体制の構築

【現状と課題】

- 障害者スポーツの裾野の拡大が必要
- 障害者のある人へのスポーツ指導者の養成が必要

【今後の施策展開の方向】

- 障害者スポーツの裾野の拡大に向けた一層の魅力発信
- 競技力向上を目指す障害者アスリートの指導者確保
- 大会の運営、選手の移動介助等を支えるボランティアの育成
- 障害者に対するスポーツ活動への支援、情報提供

【数値目標】

国や県の状況を踏まえ、素案でお示しします。

5 クリーンでフェアなスポーツの推進によるスポーツの価値の向上

【現状と課題】

- 近年、アスリートによる違法賭博や違法薬物、スポーツ団体での不正経理、指導者による暴力行為、ファンによる暴力行為などの問題が発生。
- コンプライアンスの徹底、スポーツ団体のガバナンスの強化等が必要
- 競技の公平性保持、アスリートの保護のため、一層のドーピング防止教育・活動が必要。

【今後の施策展開の方向】

- コンプライアンスの徹底とスポーツ団体のガバナンス強化（暴力、ドーピング等不法行為の根絶）
- アスリートやサポートスタッフへの研修機会の充実
- 継続した普及啓発
- おかやまスポーツフェスティバルの開催によるスポーツの価値の向上や裾野の拡大

【数値目標】

国や県の状況を踏まえ、素案でお示しします。

基本施策Ⅲ スポーツを通じた活力があり絆の強い地域社会の実現 ～スポーツ参加人口の拡大と地域の活性化～

スポーツ参加人口の拡大、トップクラブチームの活躍やおかやまマラソンの開催など、スポーツによる地域活性化を推進します。

1 スポーツ参加人口の拡大

【現状と課題】

- スポーツの価値や様々な関わり方（「する」「みる」「ささえる」）が理解されていない。
- 成人男女の週1日以上運動・スポーツを実施する割合は、49.5%（平成27（2015）年度）。
- ビジネスパーソン、女性や障害者などスポーツの機会が少ない人や、そもそもスポーツに全く興味がない人が参加するきっかけづくりが必要
- 20～40代女性のスポーツ実施率が低い。
- 指導者やスポーツ団体役員に女性が少ない。
- 障害者スポーツの裾野の拡大が必要
- スポーツが、健康寿命の延伸や医療費の抑制など社会課題の解決に役立つことが期待されている。

【今後の施策展開の方向】

- 総合型スポーツクラブが地域課題（放課後児童クラブ、介護予防）等に関与できる仕組みづくり【再掲】
- スポーツを通じた健康増進（「第2次健康おかやま21」との連携）【再掲】
- 働き方の見直し、健康経営やワークライフバランスの普及啓発【再掲】
- 女性が参加しやすいスポーツ環境づくり
- スポーツ団体等における女性登用の働きかけ
- 障害者スポーツの裾野の拡大に向けた一層の魅力発信【再掲】
- おかやまスポーツナビ等によるスポーツに関する情報の提供【再掲】

【数値目標】

国や県の状況を踏まえ、素案でお示します。

2 スポーツを通じた地域活性化

【現状と課題】

- おかやまマラソンの開催やトップクラブチームの活躍により、一体感が醸成
- スポーツの参加や観戦を目的に来訪した人の消費活動、地域資源とスポーツを掛け合わせて楽しむスポーツツーリズムに注目

【今後の施策展開の方向】

- 中国山地から瀬戸内海に至る多様で豊かな自然環境を活用したスポーツツーリズムの推進
- おかやまマラソン等による岡山県の情報発信、地域経済の活性化

- トップクラブチームの支援
- わがまちスポーツによる地域活性化
- スポーツコミッショナの設立支援等による受入体制の構築
- おかやまスポーツナビ等によるスポーツに関する情報の提供【再掲】

【数値目標】

国や県の状況を踏まえ、素案でお示しします。

3 東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機とした地域活性化

【現状と課題】

- 東京オリンピック・パラリンピックの開催決定
- ラグビーワールドカップ、ワールドマスターズゲームズの開催決定
- 上記大会を好機とし、スポーツ参加人口の増加、地域活性化等の取組が必要

【今後の施策展開の方向】

- ラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプ誘致
- 聖火リレー等を通じた東京オリンピック・パラリンピックへの参加意識の向上
- オリンピアンの育成に向けた支援とその裾野拡大【再掲】
- 東京オリンピック・パラリンピックを契機に、文化や観光などとも融合したレガシー（遺産）の創出
- トップレベルの大会の誘致
- おかやまスポーツ合宿ナビの機能充実やSNSを活用したPRの強化

【数値目標】

国や県の状況を踏まえ、素案でお示しします。

4 トップクラブチームを核とした地域活性化

【現状と課題】

- 岡山を拠点とするトップクラブチームの活躍は、県民の一体感の醸成に寄与
- 応援（みる）、ボランティア（ささえる）など、トップクラブチームがあることで様々な関わり方が可能になった。
- 試合等を契機に、多数の県外客が来訪

【今後の施策展開の方向】

- トップクラブチームの支援による県民の一体感の醸成
- トップ選手との交流等による青少年の健全育成（トップアスリート派遣事業、人権ふれあい教室など）
- 試合等を活用した岡山の情報発信
- トップクラブチームの連携によるスポーツ交流の活性化

【数値目標】

国や県の状況を踏まえ、素案でお示しします。

基本施策IV スポーツ環境の整備 ～スポーツの基盤となる「人」・「場」の環境整備～

指導者・ボランティアなど人材の育成、スポーツ施設の充実を推進します。

1 指導者・ボランティアなど多様な人材の育成、活躍の場

【現状と課題】

- 技術的指導はもとより、スポーツの価値の啓発などもスポーツ推進員に期待
- スポーツ推進員など地域における指導者が高齢化し、人数も減少
- スポーツイベントの成否にボランティアの活動が大きく影響

【今後の施策展開の方向】

- スポーツ少年団、運動部活動における多様な指導者の確保、資質向上
- 広域スポーツセンターの機能充実
- スポーツ推進員との連携、資質向上、活躍の場の確保
- 大規模スポーツ大会のボランティア活動への参加促進
- スポーツリーダーバンクの有効活用
- 民間の資格指導者との連携

【数値目標】

国や県の状況を踏まえ、素案でお示します。

2 スポーツ施設の機能の充実と活用の促進

【現状と課題】

- 老朽化による施設改修及び施設の機能維持に伴う整備
- 施設の管理運営の効率化を図るとともに利用拡大へ向けた取組
- 事故の未然防止や安全管理体制の充実
- 障害のある人や高齢者等すべての人が利用しやすい運動・スポーツ施設の整備

【今後の施策展開の方向】

- 県有スポーツ施設の計画的な改修
- 県有スポーツ施設の稼働率の向上
- スポーツ施設の安全確保の推進
- ユニバーサルデザインに配慮した施設・設備の整備

【数値目標】

国や県の状況を踏まえ、素案でお示します。

3 情報発信と表彰制度

【現状と課題】

- 誰もが気軽にスポーツに取り組むための魅力ある情報が必要
- アスリートや指導者の功績をたたえることで、県民としての誇りが醸成

【今後の施策展開の方向】

- おかやまスポーツナビの充実、スポーツ情報ポータルサイトの構築
- SNSを活用したスポーツ情報の発信
- 表彰制度の充実

【数値目標】

国や県の状況を踏まえ、素案でお示しします。

第5章 計画の進め方

1 県民スポーツ総参加に向けて

市町村・各種スポーツ団体等の役割等を記述します。

2 進行管理

計画の進行管理について記述します。

岡山県スポーツ推進計画の見直しに係るスケジュール（予定）

年月日	概要
H29. 5. 18	平成29年度 第1回スポーツ推進審議会 県から審議会への諮問 たたき台の検討
7～8月	平成29年度 第2回スポーツ推進審議会 素案の検討（1回目）
10月中旬	平成29年度 第3回スポーツ推進審議会 素案の検討（2回目）
11月中旬	パブリックコメント開始（概ね1か月）
12月中旬	パブリックコメント締切
H30. 2月初旬	平成29年度 第4回スポーツ推進審議会 審議会から県への答申
3月	公表

※上記は予定であり、変更する可能性があります。